

台湾有事(封鎖シナリオ)のイメージ～日本の法制から見た事態の推移

2021年12月 東アジア共同体研究所/須川清司 作成

	中国軍	米軍・台湾軍	自衛隊等	
フェーズ1	<ul style="list-style-type: none"> ・示威行動(艦船派遣、ADIZ 進入、演習、台湾近海へのミサイル発射等) ・サイバー攻撃? 	<ul style="list-style-type: none"> ・台湾軍:演習等 ・米軍:空母等艦船や航空機を台湾周辺へ展開 ・部隊の集結開始(主な舞台は日本) ・サイバー攻撃? 	平時	<ul style="list-style-type: none"> ・警戒・監視 ・米軍と共に自衛艦等を派遣(共同訓練を含む) ・共に警戒・監視を行っている米艦等への補給支援、武器等防護 ・ミサイル等の迎撃態勢 *台湾・中国からの邦人避難開始?
フェーズ2	<ul style="list-style-type: none"> ・台湾の海空封鎖開始 ・台湾の軍事拠点に対する限定攻撃(空爆・ミサイル・サイバー等) ・金門・馬祖等の占拠? 	<ul style="list-style-type: none"> ・台湾軍=対艦・対空での武力的抵抗(中国本土への限定的ミサイル攻撃も能力上は可能) ・米軍=台湾軍に対する支援強化 	重要影響事態	<ul style="list-style-type: none"> ・同上 ・米軍に対する後方支援・捜索救助(戦闘地域における活動は不可) *民間・自治体に対する対米支援の要求/依頼 *在日米軍基地の使用に関する日米協議(もっと早い可能性あり)
フェーズ3	<ul style="list-style-type: none"> ・米衛星の破壊、海底ケーブル切断等 ・米軍等へのサイバー攻撃 ・台湾軍・米軍と海空で戦闘 ※戦況等に応じて攻撃目標は拡大される 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の衛星の破壊等 ・中国軍へのサイバー攻撃 ・封鎖突破(対潜・制空)作戦の実施 ※戦況等に応じて攻撃目標は拡大される 	存立危機事態	<ul style="list-style-type: none"> ・戦闘地域における対米後方支援・捜索救助 ・米軍部隊に対する攻撃の排除(=中国軍との戦闘) ・米軍が行う封鎖突破作戦(対潜・対空)への参加 ・武力行使可能(ただし、中国本土への派兵、臨検、占領行政は不可) *官民=自衛隊・米軍の兵站支援
フェーズ4	<ul style="list-style-type: none"> ・同上 ・在日米軍基地、自衛隊基地及び情報・指揮命令系統、米軍集結地点等に対するサイバー/ミサイル等による攻撃 ※エスカレーションの場合⇒日本領土内の攻撃対象拡大、米本土への大規模サイバー攻撃等 	<ul style="list-style-type: none"> ・同上 ※エスカレーションの場合⇒中国本土への攻撃等 	武力攻撃事態	<ul style="list-style-type: none"> ・同上 ・破壊された滑走路等の修復 ・拠点防衛 ・米軍と共に敵基地攻撃? *住民避難

註1: 各フェーズにおける自衛隊の行動想定は法律上の限度を示したものである。実際の作戦行動は、戦況、自衛隊の態勢、米軍との協議等を踏まえたうえで決定される。

註2: 事態が「P1→P2→P3→P4」の順番通りに進展するとは限らない。「P1→P4(同時)」を含め、そうならない可能性の方がむしろ高いことに留意すべき。